

# 写真家 大塚努

多くのデジタルコンテンツの中でも、ここ数年で急速に一般への利用が増えているのがデジタル写真である。内閣府の消費動向調査によれば、デジタルカメラの普及率は2005年3月時点で46.2%。一般家庭のほぼ半分に普及していることなる。一方、教育の現場でも、コンテンツ系学部に限らず、フィールド・ワークやe-learningなどさまざまな分野でデジタル写真が活用されている。

今回は元朝日新聞社の報道カメラマンで、現在はフリーランスの写真家である大塚努氏に、写真メディアの現在や、報道カメラマンに必要な資質、大学教育に望むことなどを伺った。

**大塚さんが卒業された千葉大学工学部といえば、最近ディズニーのセル画が発見されましたね。\*1**

昔から知っていましたよ。あれはアニメの研究をしようと、買い取ったんですよ。それで持っていたわけですね。僕は1966年に卒業したから、今は発見ですよ。写真工学科は、今は工学部の、画像工学科じゃないですか\*2。

当時、写真を勉強しようと思ったら、4年制大学といえば、日大の芸術学部か、千葉大学の工学部か、2つしかなかった。選択肢がなかったんです。だから、もともとこの学校は前身が東京工芸学校だから、当然カメラマンになる人もいたわけですね。アラーキー\*3っていますよね。僕の3年先輩ですよ。痛恨の履歴だと言っていました(笑)。だから、何人からカメラマンになりましたけど、僕が卒業した後は、少ないですね。

**当時の写真工学科というのはどういった技術を教えていたのでしょうか？**

レンズの方はあまりやらなかったですね。主にフィルムですね。コダックに勝て、という感じで研究していました。要するに写真化学ですね。あとは、僕はそういうことは全然やらなかったですけど、ゼラチンの研究とかね、乳剤の研究ですね。

**芸術大学の写真学科等では、今も現像などを学ぶはずですが、これから大学で写真を学ぶ学生は、いわゆるアナログ写真での撮影や、暗室を使った実習などを行わなくなる可能性があります。**

デジタルでしょうね。教える人もいないでしょう。そういうのはもう…学校から消えていく可能性があるでしょうね。暗室技術とかいうのは、どこで残るんでしょう？ わからないですね。そういうのは予測できません。難しいですね。

いわゆる銀塩システムというのは、伝統工芸化しつつあると思うんですよ。例えば西陣織とか、半自動織機のジャガー

ドでしょ、手織りのつづれ織り。あんな感じになると思うんですよ。で、手織りのほうがいいってことはあるじゃないですか、何でも。だから、銀塩写真は付加価値がついてくると思いますよ。

**大塚さんは報道カメラマンでいらしたわけですが、報道カメラマンになれる方の経歴は様々ですよ。**

新聞社や通信社だと、4年制大学を出ていないといけない。それから、写真なんかどうでもいいと。入ってから教えるから。語学ができなくちゃいけないというんです。写真のセンスじゃないですよ。語学ができて、ある程度記事が書けて、要するにジャーナリストですよ。

昔のように、フリーのフォトジャーナリストになるというのは日本では大変ですよ。食べていけないし。



「着飾ったサハラ少女たち」(チュニジアの「サハラ祭り」にて=撮影：大塚努)

**そうすると、別段に報道カメラマンになる必要がなくなるのでは？**

実際にね。どちらでもいいっていう人も多いんですよ。

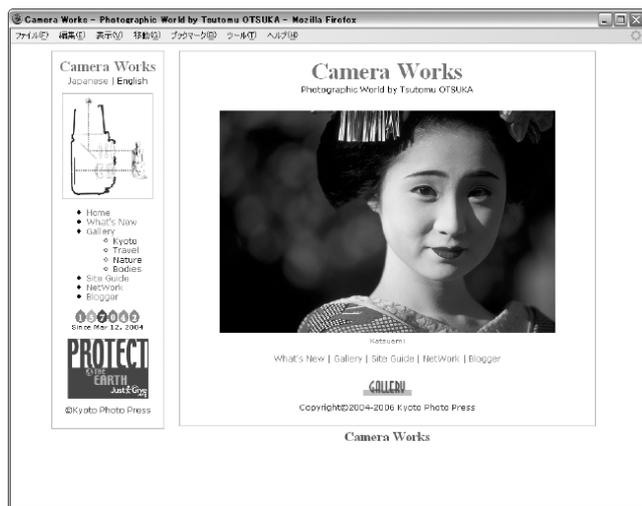
それから、もうひとつ、デジタル化によって、例えば、新聞社でもwebサイトを持っていますよね。通信社でもスチルじゃだめなんですよ。動画が欲しくなってね。だから、カメラも、ビデオカメラで撮影するわけですね。速報性もありますからね。それに、今の新聞や雑誌の印刷のクオリティだったら、デジタルで十分なんですよ。例えば、ランニングコストの問題があります。3年か、4年前に新聞社が甲子園の大会でフィルムをやめたんですよ。そしたら、500万円くらい浮いたわけですね。つまり、甲子園に現像施設を置く費用と、アルバイトの費用、これが全部なくなったわけですね。だから、これからのフォトジャーナリストに求められるのは、ムービー(動画)も撮れて、パソコン叩けて、携帯を使って電波で記事が送られて…と、そういう人ですよ。

話は変わりますが、例えばFlickr\*4のような写真を使ったSNSではどうしても日本人は積極性がありません。そういった問題も含めて、これからの大学教育で国際的に通用する人材を育てるといのもひとつの目標なわけですが、

多分、語学の問題だと思いますよ。日本人が消極的になってしまうのはね。僕、英語全然ダメですよ。でも日本人が下手なのは当たり前だと。間違ってもいいやと思えば、そう思っているんですよ。そういう意味では、Flickrの日本人ユーザの多くが、再び日本語の写真サイトや日本語グループでかたまってしまうのは、よくないですね。

インターネットと国際性の問題っていうのはすごく難しく、僕がはじめてホームページをつくったのは1995年ですが、教科書がありませんでしたから、どうやっていいかわからなかったわけですね。ましてやHTMLなんてわからないわけです。

それで、他のサイトからコピーアンドペーストで、あてはめてつくったんですね。完成後にYahoo!にのせてくれていたらすぐ懇切丁寧な返事がきて、署名もありましたよ。そんな時代でした。ところが、Yahoo! JAPANができたために、全部ダメになっちゃったんです。いままでは日本人もみんな一生懸命作ってたんですよ。英語のページを、英語のページをつくらなくても「このページには日本語しか書いていません」くらいのことは書いてあったわけですね。ところが、Yahoo! JAPANができたためにホームページは日本語でいいんだ、と、いうことになってしまったんですね。



大塚氏が主宰するサイトCamera\_Works  
[http://www.geocities.jp/camera\\_works/](http://www.geocities.jp/camera_works/)

それまで日本のインターネットの中にあったグローバルゼーションのようなものが、途端に閉鎖的になってしまったわけですね。

例えば、ハンゲルだらけのサイトに行きますかといわれたら、行かないでしょう？ 同じように日本語しか書いていないページに誰が行きますか？ 僕はそういう意味で、Flickrでも、日本語でばかりやっていたら、誰も見なくなると思うんですよ。インターネットと言語という意味では、もともと

の英語圏の人は得をしてますけどね。

これからの大学教育に望むことがあればお願いします。

創造性と、自分で研究することが大事だと思います。大学というのは、いわゆる教わる場ではなくて、研究する場であると思うし、刺激を受ける場でもあると思うんです。ものを考えるメソッドを学ぶところじゃないですかね。原理的なところを学ぶわけですよ。そうすると、どんなものが出てきても、対応できる訳ですね。応用が利くわけです。そういうことを学ぶのが、大学だと思うんですね。

注)

\*1 2005年12月に、千葉大学工学部は、工学部で保管していた米ウォルト・ディズニー社製作の初期アニメーション映画の原画について公表した。これらの原画は、1959年に全米公開されたディズニー映画「眠れる森の美女」のセル画、背景画をはじめ、「バンビ」「ファンタジア」「白雪姫」のほか、ディズニー作品のセル画・スケッチ画等である。当時展示を行った東京国立近代美術館より千葉大学が買い取ったものである。

\*2 現在は、千葉大学工学部情報画像工学科。

\*3 写真家の荒木経惟。1963年に千葉大学工学部を卒業後、電通の宣伝カメラマンを経てフリーの写真家として活躍中である。

\*4 Flickr(フリッカー)はカナダのLudicorp社が開発した写真共有型のSNSサービス。2005年にLudicorp社はflickrと共にYahoo!に買収された。このため、それまでカナダにあったFlickrのサーバはすべて米国内に移動。現在Flickrのすべてのコンテンツは米国の連邦法下に置かれている。雑誌等で取り上げられたことから、日本にも多くのユーザが存在する。大塚氏もtwin\_lensのハンドルネームで自身の写真を公開している。

[http://www.flickr.com/photos/twin\\_lens/](http://www.flickr.com/photos/twin_lens/)

### 大塚努(おおつか つとむ)

フリーランス・フォトグラファー。1966年に千葉大学工学部写真工学科を卒業後、朝日新聞社大阪本社に入社。1972年に東京本社出版局に異動し「アサヒグラフ」「週刊朝日」「朝日ジャーナル」などに参画する。2003年よりフリーに。『イスタンブル素描』(2000年8月、京都「SPACEろさんじ」)、『イスタンブル逍遥』(2004年1月、大阪「富士フォトギャラリー」)等の個展の他、2005年9月の『第35回京都写真芸術家協会展』(京都、京都文化芸術会館)では作品「歪んだ家」で京都写真芸術家協会賞を受賞。日本写真学会会員、京都写真芸術家協会会員、写真クラブPRISM会員、京都フォト通信責任編集者、関西写協ウェブ責任編集者。